



答案返却……そもそも「定期テスト」って何のためにあるのでしょうか。



先週行われた中間考査の答案が、生徒たちに返却されました。定期テスト……保護者の皆さんもそれぞれに様々な記憶があることでしょう。現在、串高では定期テストを年4回(1・3学期に1回、2学期に2回)実施しています。近年では、定期テストを廃止している高校もあるようで、県教委に確認したところ、昨年度の調査結果によれば、定期テストを実施していないという学校は県立高校61校中7校あるそうです。でも、その7校は、日々の学習状況だけで学習評価をしているわけではなく、実力テストの中に範囲を

入れたり、単元テストを実施したりしているようです……。むしろ、そちらの方が大変そうな感じがしますね。結局、どこの高校であっても、生徒たちはテストから逃れられないということです。

改めて、定期テストにはどんな意味があるのか。私なりの見解を記してみたいと思います。

まず、**学びに区切りをつけて知識を整理する機会、自分の現在地を知る機会**であるということです。だから、今回のテストでできなかったところは、今、1つでも多くできるようになっておくことが大事なのです。中には、「定期テストは暗記もの。AIが進化している今どき、そんな作業は意味がない」と考える人がいるかもしれませんが。でも、考えるためには、頭の中に材料が必要です。新しい言葉・定義・法則等との出会いがあって、その意味を理解し、覚え、活用して、知の世界は広がります。暗記は、**考えたり、表現したりするための土台を作る機会**という重要な意味を持ちます。



また、**ミッション遂行のためのスキルを磨く機会**でもあると考えます。定期テストには、「出題範囲」が指定され、実施日は前々から決まっています。だからこそ、生徒たちには「そろそろ始めなければ」とか「この教科は苦手だから早めにやろう」と考えてほしいのです。勉強する時間を作り、優先順位を決め、間に合いそうでないなら予定を修正する。極論すれば、テスト前だけ頑張ることも、見方を変えれば、期限に向けて自分を動かす練習になります。(もちろん、普段から地道に取り組むことができれば、文句なしであるのは言うまでもありません……。)

社会に出てみれば実感されることですが、毎日が「定期テスト」の連続みたいなものです。どんな職種であれ、約束された期日までにミッションを遂行しなければならないわけです。それに対してどれだけの準備ができるのか。時には無茶ぶりのオーダーもあります。そんな場面でいい仕事ができる人は、周囲からの信頼を得ます。**「こころ一番」という場面で、自分を動かせる力。そういう力を身につけさせる学びが、定期テストにはあるのだと思います。**

14日(水) 学年・学級PTAを開催しました。

1・2年生は、コース選択のほか修学旅行、タブレット、奨学金等、出費に関する情報が多かったと思います。こどもまかせにはできない内容ですので、情報収集はお早めに。不明な点があれば、担任までお問い合わせください。

また、3年生については、受験を控えている者、内定者それぞれの今後の高校生活の過ごし方、自動車学校入校のルールの確認等を行いました。

